

令和2年度第1回酒田市立資料館協議会 議事録

◎開催日時

令和2年10月8日（木）午後1時30分～

◎会場

酒田市役所 701 会議室

◎協議事項

(1) 令和元年度の事業実施報告及び令和2年度の運営状況について

・事務局資料に沿って説明

(委員) 「カッコいい酒田の女たち」は、コロナ禍がなければかなりいい展示になったように感じた。「さかたの筆・技」に、飛島の江戸時代の生活の様子を描いた絵があったが、飛島の観光にああいったイラストがちょっと入ってくると風情があっていいと思う。

(委員) 酒田市の小学4年生は、その生涯、郷土を拓く、砂と戦うということを詳しく勉強している。展示や出前授業で勉強ができればいいなと思う。社会科と総合的な学習で、自分で調べていく学習が多くなっていく。そうした時に酒田市の資料館も一つのサイト、選択肢として、そこから自分の調べていきたい酒田の歴史や、昔の道具、本間光丘など、調べるものが充実されていくといいと思う。ホームページのアクセス数も一つの指標にしては如何と思う。

(事務局) 11月21日からの企画展では、庄内砂丘を扱う。是非いい展示にして、生徒さん方の勉強する場になればと頑張っている。ホームページのアクセス数の話については、フェイスブックをあげるようになったのは去年の6月からで、基本的には毎週、展示している作品や、新しく入った資料のことをあげている。年度当初が500～600件だったのが、フェイスブックをしてみてからアクセス数が少し増えている気がする。去年の8月は1,000件くらいのアクセスがあった。フェイスブックの「いいね！」の数は、一番多い時で200件ほどあった。そういったところも職員の励みにしていきたいなと思う。

(委員) 自分の生まれたところの歴史にはすごく興味を持つので、資料館で講演を聴ければ意義のあることだと思う。出前講座もやっているということなので、ここは昔こういうところでしたよという話をすれば興味を持つ人はかなりいるのではないかなと感じた。

(委員) 資料館の役目は企画展示というのが大きな役割であり、また学校教育との連携というのも重要な点だと思う。そして市民とともに歩むということもある。資料館の施設はそんなに大きくないが、その三本柱でやっていただいて、出前講座でも市民の希望にこたえるという、今の状態は非常にバランスよく出来ているように思う。ただ一つ惜しまれるのは、資料館の所蔵品というのが5万点あるということで、この5万点を今後どう活用していくかということが今後課題として残っていくのではないかと思う。今後はデジタルの世界になっていき、学校の子供たちも1人1台タブレットとなれば検索する機会も増えてくると思う。資料館の資料をデジタルアーカイブにしていくとか、目録でもいいのでそういったものをあげていくというのが今後必要になってくると考えている。

(事務局) デジタルアーカイブ的なものは光丘文庫のほうで進んでいるようだが、予算的なところもあるかと思う。今は企画展示の目録は全部あげることができている。所蔵資料が5万点という話だが、件数でいうと1万7~8千件くらいかと思う。全部というのは難しいが、テーマを決めてできればいいという話を館内ではしているが、なかなかそこまで辿り着けなくて、なんとか頑張りたいと思う。

(2) 令和3年度企画展示素案について

・事務局資料に沿って説明

(委員) 見学コースで山居倉庫の次に向かうのがオランダせんべいで、せっかくなら資料館のほうで火事の歴史や町のことなど語ることがあるのではないかと思う。酒田を知ってもらうには資料館のほうに足を運ばせるようにしてほしい。

(委員) 庄内米歴史資料館との差別化、または棲み分け、あるいは発想をかえて連携、連動、そういうところを考えていかなければならないと思う。庄内米歴史資料館はジオラマや人形があり、実物がかなり豊富で、子どもたちからすればかなりインパクトがある。酒田市の昔の写真資料に人がたくさん来ているということで、資料館にしかない写真や、資料館なりの分析などの工夫をしたら、お客さんが来ると思う。企画展素案の名称も含めて、企画展自体の方向性をしっかり検討していったほうが良い。

(事務局) 庄内米歴史資料館との差別化ができるかどうか、場合によっては庄内米歴史資料館との話の中でより充実したものにできればいいと思う。

- (委員) 観光という観点からいうと、1つの施設のガイドが終わった後に、資料館や美術館を紹介してあげるといいと思う。
- (委員) 市内展示施設の共通券のようなものを考えてはどうか。
- (事務局) 酒田市美術館・土門拳記念館・本間美術館の三館共通券や、本間家旧本邸と本間美術館の共通券などはあったが、市内全体でというのは無い。
- (事務局) 資料館は観光より、学習する方がいらっしゃる施設ということがあり、団体の方がバスで来て見ていく、ということはありません。タクシー会社から、資料館で何をやっているのかわからないとあったので、タクシー会社に資料を差し上げて、観光客の方で歴史の勉強をしたい方はぜひこちらにもおいでくださいとご案内した。見るだけ見て帰っていくというよりも、そこで少し学んでいくという施設でありたいと思うし、そういう意味でもっとPRが必要だと思っている。
- (委員) 企画展の回数を増やすということはないのか。
- (事務局) 調査員の準備の関係や、お客さんの入りの感じを考えると、この企画展時の期間でやっていくのがいいと思っている。あまりスパンを短くすると調査の負担も大きくなるので、5つということで考えている。
- (委員) 正式に決まるのは2月だが、年度当初の企画展について事務局側から案はあるか。
- (事務局) 1回目の企画展の頃には山居倉庫の国指定史跡の話が出ている頃だと思うので、タイミング的には山居倉庫がいいかと思う。
- (委員) 私も1回目の企画展示は山居倉庫がよろしいと思う。本当は今年の2回目は酒田のスポーツだったということだが、果たして来年オリンピックをやるのかということに懸かってきていると思う。関係なくやってもいいのだろうが、オリンピックをやってこれをやるとさらに意味があると思う。やらない時は代替えのものを準備しなければいけない。あと、4回目が丁度小学校の子供たちが学習する時期なので、そのあたりに小学生が来やすい企画をもってくれば良いと思う。また、コロナも最近の話題ということで、それを医療にもっていくのか、それとも祈りにもっていくのかということで、どちらか、もしくは一緒にしてもいいのかもしれない。
- (委員) コロナのことを総合学習に取り上げている学校は多い。どんな病気なのか、どこで流行っているか、だれが罹りやすいか、本当に信憑性があるのかはわからないが、「酒田の衛生医療と疫病」というタイトルはちょっと固い。その当時の生活とかが分かれば、非常に関心は高いと思う。

(事務局) 委員の皆様の意見からすると、今年飛ばしたものに敢えて拘らなくてもいい、もっと広く考えてもいい、という意見と受け止めてよろしいか。

(委員一同) はい。

(委員) 「山居倉庫と明治の建物」という表現だが、山居倉庫について史跡ということに着目するのであれば、建物と言うのは外れてくる。山居倉庫というのは、今のような空調設備もない、ただの箱でどうやって米を入れた状態、収穫した状態を保つか、そういった工夫をした、そこがやはり歴史的な意義があるところなので、建物というので着目するのであれば別の捉え方をしたほうがいいと思う。「山居倉庫と庄内米」とかそういった感じのほうがいいのかもかもしれない。オランダせんべいに行くのも、米というのが現在どのように使われているのかということで、たぶん行っているのだと思う。

(委員) 亀ノ尾の阿部亀治が有名だが、庄内米に関連して貢献した人物ということも大事なのではないかと思う。

以上